

廿日市市景況調査 (2016年1～3月)

◇旧廿日市市(合併前の区域)の調査結果になります◇

全国の3月景況 「業況DIは、足踏み状況。先行きも不透明感強く、慎重な見方が続く」

3月の全産業合計の業況DIは、▲23.6と、前月から▲0.8ポイントのほぼ横ばい。原材料価格や燃料費などの下落の恩恵が続く中、好調な観光需要による下支えのほか、設備投資にも持ち直しの動きがみられる。他方、人件費上昇や受注機会の損失など人手不足の影響拡大、消費低迷の長期化に加え、新興国経済の減速、不安定な金融市場など、取り巻く環境の厳しさがマインドを鈍らせており、中小企業の業況感は足踏み状況となっている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲22.1(今月比+1.5ポイント)と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。春の観光シーズンに向けた需要拡大や設備投資の持ち直し、補正予算・来年度予算の早期執行などへの期待感が伺える。他方、新興国経済の減速やマイナス金利政策を含めた金融市場の不透明感もあり、先行きが見通しづらい中、中小企業においては、消費低迷の長期化や人手不足の影響拡大、春闘の結果を受けた人件費の動向と価格転嫁の遅れに対する懸念などから、慎重な見方が続いている。

会議所管内の1～3月景況 「業況は業種によりばらつくも停滞感続く」

前年同期比では、全産業合計の総合業況DIが▲18.0と、前期(27年12月▲14.3)より3.7ポイント下落した。

産業別の業況DIでは、製造業で7.1ポイントの上昇、建設業で36.4ポイントの上昇、卸小売業で21.0ポイントの下落、飲食・サービス業で2.2ポイント下落となった。

向こう3ヵ月(4～6月)の先行き見通しでは、全産業合計の総合業況DIが▲19.7と前期(27年12月▲17.8)より1.9ポイント下落した。

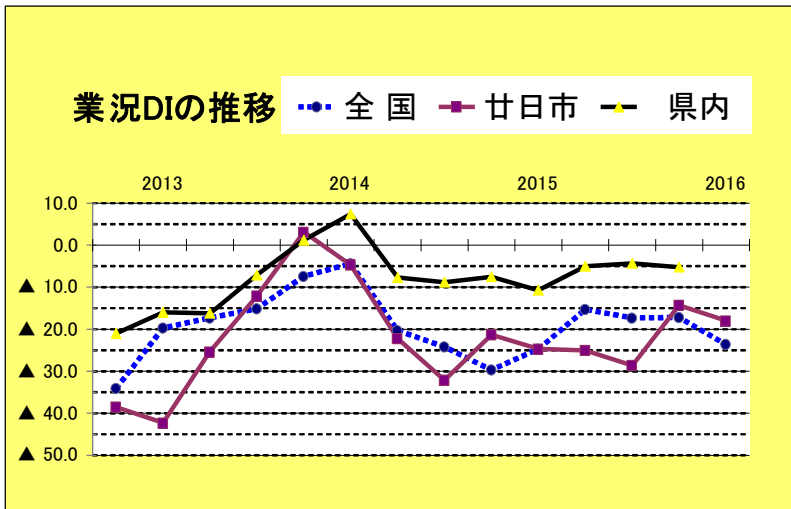
産業別では、製造業で32.5ポイントの上昇、建設業で10.4ポイントの下落、卸小売業で6.5ポイントの下落、飲食・サービス業で9.7ポイント下落の見通しとなっている。

【製造業】	取引条件の悪化 外注費の削減と若干の売上増 新商品の導入での売上増 円安、円安の緩和
【建設業】	利益減少
【卸小売業】	需要の減少 経費コントロール 横這い 競合店の増加 都市計画でフラワー通りが空地だらけの為、人通りがありません 人材募集が急務 多角的経営をしている。現在の傾向にあった新規事業へ追加を検討中 店が移転
【飲食・サービス業】	受注単価の下落

業種別 景況概要	全国(3月)		廿日市市 1～3月									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲14.9	▲17.4	▲24.6	▲26.2	▲14.3	0.0	14.3	▲14.3	▲58.3	▲54.2	0.0	▲12.5
採算	▲17.7	▲19.5	▲21.3	▲24.6	14.3	21.4	0.0	▲28.6	▲50.0	▲54.2	▲18.8	▲18.8
仕入単価	▲24.2	▲23.4	▲16.9	▲16.9	0.0	7.1	▲28.6	▲28.6	▲20.8	▲25.0	▲21.4	▲21.4
雇用人員	15.6	13.1	16.9	15.3	14.3	7.1	28.6	14.3	16.7	20.8	14.3	14.3
業況	▲23.6	▲22.1	▲18.0	▲19.7	7.1	14.3	0.0	▲28.6	▲41.7	▲45.8	▲12.5	▲6.3

※ 全国調査は【日本商工会議所LOBO調査】をご参照ください

(対象 190社 回答 61社)



特に好調	$50 \leq DI$
好調	$25 \leq DI < 50$
まあまあ	$0 \leq DI < 25$
不振	$\blacktriangle 25 \leq DI < 0$
きわめて不振	$DI < \blacktriangle 25$

●設備投資は？

		1～3月	4月～6月 見込み
実施した	土地	0	1
	建物	1	5
	機械	5	2
	車両	4	6
	OA	2	3
	その他	2	0
	計	14	17
実施していない・しない		45	38

※複数回答・無回答あり

●当面の問題点は？

第1位	売上、需要の停滞	32.7 %
第2位	販売単価の低下、上昇難	14.8 %
第3位	従業員、人材の確保難	10.5 %
第4位	消費者ニーズの変化の対応	8.0 %
第5位	新規参入業者の増加 大企業の進出による競争激化	5.9 %

※「その他」はランク外扱い

●DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断状況を表す。ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上など実数値の上昇や下降を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ $DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$

業況・採算：(好転)－(悪化) 売上：(増加)－(減少)